

津山圏域定住自立圏における市長の動きは

問 津山圏域定住自立圏における市長のリーダーシップを活かした動きは。

答 津山圏域定住自立圏において、平成29年3月に策定した共生ビジョンに沿って、圏域5町とともに38の連携事業に取り組んでいる。圏域住民の暮らしを支え、魅力を向上させていくためにも、連携事業の企画立案や協力的体制の構築に主体的に取り組み、中心市として総合的なマネジメントの役割



緑風会
森西順次

津山市の自主財源・依存財源の現状

問 平成31年度一般会計予算482億円のうち、自主財源が180億円で37%、依存財源が302億円で63%である。この状況について、市長はどのように感じているのか。

答 全国にある類似団体の自主財源比率が平均40%程度であり、津山市の37%と大きな差はないと考えるが、自主財源の多寡（※）は、財政運営の自主性、安定性を計る尺度になる。今後、人口減少



清流の会
津本憲一

社会的に確に対応しつつ、硬直化した財政構造からの脱却に取り組み、ここで、こうした状況の改善にもつながっていく。

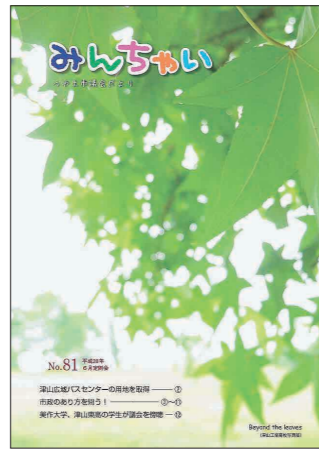


財政の安定化に取り組む

広報調査特別委員会

取り組み内容

- 議会だよりの全面カラー化
- 議会だよりの愛称を「みんなちやい」に決定
- 市内高校生に議会だよりの表紙写真の提供を依頼
- 議会だよりで政務活動費の活用報告
- 一般質問の追跡記事を掲載開始
- 議会ホームページのリニューアル
- インターネット中継の安定性向上



議会活性化調査特別委員会

取り組み内容

- 議員報酬・定数の現状維持を決定（ただし、将来的に定数削減を検討する必要性は高く、調査・研究を継続する）
- 運営方法の改善による議会報告会の参加者増加
- 高校生・大学生との意見交換会を開催
- 議場の対面方式、電子表決システムの導入（6月より運用開始予定）
- 議会基本条例の制定



4年間の取り組み・実績は!?

特別委員会が中間報告！

津山市議会では、特に必要と認める事項を調査するため、「広報調査特別委員会」と「議会活性化調査特別委員会」を設置しています。今回の定例会では両特別委員会から、この4年間の取り組みなどについて報告が行われました。

都市計画マスタープラン



津山自由民主倶楽部
野村昌平



平成20年度策定のマスタープラン

問 都市計画マスタープランの策定が遅れているのはなぜか。完成は。

答 平成29年度から着手し、30年度末の公表を目指したが、土地利用のあり方について、さらなる精査と検討が必要と判断した。作業に所要の期間を要していることから、完成は31年度の後半になる見込みとなった。

問 天神橋と津山駅を結ぶ「福岡43号線」の完成予定と概要・効果は。

答 事業効果は国道53号と津山柵原線を結ぶバイパス機能、歩道整備による通行の安全確保であり、令和4年度を完成目標としている。（付記：当該道路は長さ900m、幅11m、事業費6億4,000万円見込み）

ガラスハウスの今後は

問 不審火で崩壊した空き家の対応は。

答 火災で焼損した住宅建物の跡地が特定空き家等の認定条件を満たさない場合は、一定の条件をクリアすれば、廃材等の処分費補助金を活用できる。また、焼損した空き家が特定空き家等に認定する条件を満たしていれば、空き家の除却事業補助金の対象になる。



清流の会
近藤吉一郎



市営プールの方向性は？

問 グラスハウスの現在の検討状況は。

答 平成30年度中にガラスハウスも含め、市営プールのあり方についてのプロジェクト会議を4回開催し、現状把握、課題の整理を実施している。今後はサウンディングを実施し、独立採算による運営の可能性を調査の上、31年度末には方向性を見極めたい。

※多寡…多いことと少ないこと。多いか少ないか。